

理解・習得！ 自校に展開！
生徒の学びをデザインするカリキュラム・マネジメント

ワークショップ参加者の今

本誌2019年6月号の特集でレポートした通り、19年3月、VIEW21編集部が主催で、カリキュラム・マネジメント(以下、カリマネ)への理解を深め、自校での展開を考えるワークショップが実施された(図)。それから8か月余りが経った今、参加者はワークショップでの学びをどう生かし、どんな課題に直面しているのだろうか。

参加者が語る 自校のカリマネ推進「成果と課題」

カリマネ推進プロジェクトチームで作成した「育てたい生徒像」の素案を、全教師で共有・議論する場を複数回設けました。そこで得られた意見を反映させ、自校の「育てたい生徒像」を策定。それを基に作成したルーブリックを行事の場で生徒に示しています。各教科・科目では、「育てたい生徒像」を踏まえた授業改善に取り組み始めているところです。(広島県・公立)

3月のワークショップ後、カリキュラムの柱となる「総合的な探究の時間」を進める上で重要な「探究課題の設定方法」について、校内研修を実施しました。ただ、プログラムがまだ確定していないため、教科学習や学校行事とのつながりを明確にする段階には至っていません。今後、先生方のモチベーションを高めながら、負担をかけずに検討を進めていけるかが重要であると感じています。(広島県・公立)

ワークショップで同じグループになった全国の先生方と、カリマネの推進を約束したことが大きなモチベーションになっています。学校として育成を目指す資質・能力の設定に向けて、校長も、カリマネ推進チームに対するバックアップを全教師に向けて表明してくれました。校内の中心課題として、カリマネ推進が全校の取り組みに昇華されつつあります。(広島県・公立)

3月のワークショップに参加した先生方とは、今でもSNSを通じて、カリマネの進捗状況などを共有しています。各分掌の協力もあって、カリマネの視点でのグランドデザインの策定も進行中です。ただ、現在の定期考査の内容を見ると、先生方の理解・認識の差はまだ大きいようです。(福岡県・公立)

- ワークショップの大まかな流れ ※参加者5~6人を1グループとして進行。
- 課題整理 「なぜ、カリマネなのか？」関西大学教育推進部 教授 森 朋子
 - 事例報告 「静岡県立御殿場高校の取り組み」静岡県立御殿場高校 教諭 美那川雄一
 - グループワーク 御殿場高校の取り組みに対するの共感点・疑問点などを語り合う/美那川先生と参加者の質疑応答
 - 3つの分科会 ※3つの中から1つ選んで参加
 - 学校教育目標のブラッシュ・アップ
 - カリマネと学習評価のあり方
 - カリマネを学校全体に浸透させるポイント
 - ワーク 個人のカリマネ行動計画立案
グループのカリマネ行動計画を検討・立案



多くの高校がカリマネを推進中

ワークショップ開催から約半年が経過した9月末、参加者の学校におけるカリマネの進捗状況を確認すべくアンケートを実施した。参加者からは、「校内にプロジェクトチームを立ち上げた」「校長が教師向けの校内通信で、カリマネの推進を宣言した」「若手中心で育てたい生徒像や探究学習のあり方について検討が進んでいる」といった声が寄せられ、教員や学年、分掌の違いを超えて教師が協働し、カリマネを推進している学校が少なくない様子がうかがえた。



新学習指導要領の実施まで2年余り、 カリマネの実現が学校の重要課題の1つに

2019年3月に実施したワークショップでは、すべての参加者が講師の話に真剣に耳を傾け、グループワークで活発に語り合うその様子に、カリマネが現場の重要な課題の1つになっていることを改めて実感しました。そして、今回のアンケート結果からも分かるように、参加者はワークショップで得た学びや気づきを生かしながら、自校に合ったカリマネを推進しようと試行錯誤されています。本ワークショップを特集した本誌19年6月号の発刊後、VIEW21編集部には、カリマネをテーマにしたワークショップ型の講演や研修のご依頼を、学校や教育委員会から以前にも増していただくようになりましたが（下記、VIEW21編集部による講演・研修実施例）、そうしたことから、カリマネへの関心の高まりがうかがえます。

22年度から年次進行で実施される高校の新学習指導要領において各校に求められている、「社会に開かれた教育課程」の編成・実施と、それを通じた新しい時代に必要となる資質・能力の育成には、カリマネの実現が必要不可欠です。VIEW21編集部は、これからも、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの実現に資する知見や情報を、様々な形で現場の先生方にお届けしてまいります。

VIEW21編集部 統括責任者 柏木崇

◎ VIEW21 編集部によるカリマネをテーマとした講演・研修実施例

- ・茨城県教育委員会研修（19年6月）
- ・全国工業高等学校長協会「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の実践研究」研究校会議（19年6月）
- ・福岡県高等学校工業教育研究会主催・工業に関する学科を有する高等学校の主幹教諭・指導教諭等研修会（19年8月）
- ・第2回宮崎県高等学校副校長教頭会（19年10月）
- ・鹿児島県・高大接続改革セミナー（19年11月）
- ・福岡県立福岡工業高校・第2回校内職員研修会（19年11月）

本校におけるカリマネの推進のきっかけは、間違いなくVIEW21編集部主催のワークショップです。同じグループだった先生の紹介で先進校訪問の機会を得たことなどを通じて、校内でのカリマネ推進の意欲が一層高まりました。これまでに、有志の教師がチームをつくり、グランドデザイン作成のためのワークショップを、生徒・教師対象で1回ずつ、自由参加の話し合いを2回、行いました。現在は、「学校教育目標の達成のために必要となる資質・能力」を明確化し、年度内でのグランドデザインの完成やルーブリックの作成を目指しているところです。（徳島県・公立）

本県では、公立高校の2021年度入学者選抜から、各学校で「育てたい生徒像」を明確にした上で選抜を行うことが求められるようになります。本校でも、3月のワークショップで活用したワークシートを使って、学校の強みや強化すべき点を整理しながら、育てたい生徒像を検討し、全教師での共有を目指しています。また、「総合的な探究の時間」の充実と、授業改善を目指すプロジェクトチームを発足し、若手中心で議論を進めています。ただ、校内全体の関心が、今年度は「総合的な探究の時間」に向いていて、教科の垣根を超えた授業改善の取り組みが思うように進んでいない状況です。（長崎県・公立）

ワークショップ概要

- 日時 2019年3月23日（土）10時30分～17時30分
- 会場 株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社（岡山市北区）
- 参加者 全国の高校教諭42人
- 参加費 3,000円（税込み、昼食代を含む）
- 監修・ファシリテーター
関西大学教育推進部 教授 森 朋子
「三四郎の学校」事務局長 日賀優一
- 講師 関西大学教育推進部 教授 森 朋子
静岡県立御殿場高校 教諭 美那川雄一
岡山県立林野高校 校長 三浦隆志（2019年3月現在）

次号では、
ワークショップの講師と
参加者による、カリマネ
推進の進捗振り返り会
(12月に実施)の内容から
カリマネ推進上の
課題と具体的方策
について考えます

走り始めた学校現場が
直面した課題とは

一方、壁に直面している学校もある。「育成を目指す資質・能力の絞り込みが思うように進まない」「育成を目指す資質・能力に対する理解・認識の差が、定期考査の内容の差に出ている」「資質・能力に関するルーブリックを活用する場面が具体的に分からない」などだ。そうした認識や実践の差の解消に向け、ワークショップ参加者を始めとするカリマネの理解者がいかにその知見を全校に広げ、リーディングしていくかが大きな課題の1つと言える。また、「働き方改革が進む中で、会議の時間の確保に苦労している」といった、対話の場の設定を課題に挙げる参加者もいた。